

PROGRAM NOTE

2015年5月

戦後70年：ラジオと私の歩んだ道

JSWC会員番号100 佐野嘉信



日本短波クラブ創立55周年（東京ハムフェア会場にて）
前列中央：佐野嘉信さん 写真提供：永野正和さん

1953年（昭和28年）頃、当時東北大学の学生だった私は、日本短波クラブ創設者的小川昭さんと偶然知り合いになり下宿先によく押しかけて「同じ釜の飯」を食べたものです。クラブの入会をすすめられましたが、会員番号は100を獲得したいと思ったのでそれまで待つことにしました。

ラジオに興味をもったのは中学生になったばかりの頃で、当時東京神田の露天にならぶラジオの店で部品を買ってなんとか自分で真空管式のラジオを組み立てたのがはじまりでした。出来上がったラジオから流れてくる音楽は、私には、まさにカルチャー・ショックでした。戦時中は日本以外の音楽をきくのは非国民だといわれていたので、戦後唯一のラジオ局だったNHKが流しはじめたジャズやラテン音楽を耳にしたときには、ほんとうにびっくりしました。そこで、短波ラジオで外国の放送をきくようになつたら、またまたカルチャ

ー・ショック！それからが大変です。もう世界中の放送をききまくりました。音楽レコードも手に入れてアルゼンチン・タンゴに魅せられてアルゼンチンの放送をキャッチしたり、ブラジルからは日本の曲でコマーシャルが流れていたり、ベトナム戦争前でフランス領だったサイゴンからはシャンソンまできこえてきました。

1956年（昭和31年）に大学を卒業して電源開発会社に就職。四国や福井の河川の上流の山奥で仕事をしていました。そのうち日本政府の円借款の仕事がタイではじまりテレビ番組の「プロジェクトX」なみの難工事にたずさわりました。現場は猿と猛毒蛇キング・コブラの生息地で、見上げるようなジャングル。そのジャングルの樹よりも高いアンテナを立て、短波ラジオも日本から部品をとりよせて組み立てたら、海外からの放送がガンガン入ってきて、NHKの大相撲中継も大いに楽しむことができました。

1996年（平成7年）に昔仲間たちから私に日本短波クラブの編集の仕事をやってほしいとのまれました。さあ大変。そうなると肝心のラジオを聴くひまがなくなってしまうのですが、なんとか19年間つとめあげることができました。編集後記は、会員のみなさまの原稿があつまって編集して、その終わり頃に書かないと書けないのですが、その時間が非常に短く、そこにピリッときいた「一句」入れるとなると、さらに時間が短くなり大変な仕事です。私の座右の銘は「継続は力なり」とはいえ、実際に「継続」はかなりきついのですが、みなさまからの要望もあるようなので、自分にも頭の体操になるとおもつて、これからも続けさせていただくつもりでいます。どうか、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

サタデー・トーク

きき手尾崎一夫	毎週土曜日放送
5月02日	世界がもし100人の村だったら（子ども編）
5月09日	アフリカの子供たちを愛したアンディ（1）
5月16日	アフリカの子供たちを愛したアンディ（2）
5月23日	佐野嘉信（1）JSWC機関誌前編集長
5月30日	佐野嘉信（2）JSWC機関誌前編集長

バイブル・トーク

淀橋教会 峯野龍弘主管牧師	毎週日曜日放送
5月03日	聖書の見所をたずねて：聖書遊覧バス（85）
5月10日	聖書の見所をたずねて：聖書遊覧バス（86）
5月17日	リスナーからの「お便り交換の時間」
5月24日	聖書の見所をたずねて：聖書遊覧バス（87）
5月31日	聖書の見所をたずねて：聖書遊覧バス（88）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 17760kHz (再放送) 午後7時55分～8時25分 15400kHz
(米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.org>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）